第１回郡上市総合教育会議　要録

開催日時：令和５年11月27日（月）15:30～17:10

開催場所：本庁舎4階　委員会室

出席者

構　 成 　員：市長　日置 敏明　　教育長　熊田 一泰　　教育長職務代理者 原 初次郎

教育委員　杉本 尚之　水野 秋子　澤﨑　美智子

オブザーバー：副市長　青木 修　　教育次長　長尾　実

陪　　　　席：教育総務課長　和田　幸宏

学校教育課長　市原　隆行　　　　同課指導係長　武藤　祐輔

　　スポーツ振興課長　黒田　隆成　　同課部活動改革ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　橋詰　勝司

事　 務 　局：市長公室長　河合　保隆　　企画課長　入木田　瑞樹　　同課企画調整係長　北田　愛美

【議事】（１）学校部活動の地域クラブ活動への移行について

（２）郡上市内の学校における不登校の現状と対応について

1．開会　15:30

市長公室長

第1回郡上市総合教育会議を始める。本日は、「学校部活動の地域クラブ活動への移行について」　　「郡上市内の学校における不登校の現状と対応について」の２点の議題について協議をお願いする。　　2つ目の議事については、その内容に慎重に扱うべき情報が含まれているため、公開になじまないと　　判断し、非公開とさせていただくのでご了承願いたい。

２．市長あいさつ

先日の大和の小学生による東氏物語オペレッタが大変素晴らしかった。関係者の皆様方の熱心な指導にも感謝申し上げたい。また、この土日に劇団ともしびの公演があったが、熊田教育長をはじめ皆さんに熱演して頂いた。本日は、2つの議事について協議いただくので、よろしくお願いしたい。

３．教育長あいさつ

10月以降、学校公表会が相次いで行われており、12月1日にも大中小学校で予定されている。これはコミュニティースクールを中心とした地域協働活動の向上といった大変良い内容のもので、地域の皆さんも多く参加されると聞いている。

11月11日には、大和小学生のオペレッタ、18日には中学生の市長とのふれあい懇談会が行われた。本日の議事は二つとも、郡上のみならず日本中の教育課題と認識している。市側と教育委員側で

　それぞれ意見を頂き、すり合わせをして同一歩調としていきたい。

４．議事

（１）学校部活動の地域クラブ活動への移行について

スポーツ振興課：資料1をスライドにて説明。

市　　長：説明にあったように、学校部活動を地域移行する一番の原因は児童生徒の減少であり、このような形で対応せざるを得ないという強い方向性が示された。また、対応できる可能性が十分あるということであったが、これについての課題や意見はないか。

委　　員：地域スポーツクラブの中には、社会人や一般の人のクラブも含まれているのか。工程表や既

に取り掛かっているクラブがあれば聞きたい。

スポ担当：一般者のクラブはスポーツ協会が主管している。当初はスポーツ協会が母体となり、大人、小中高校生を含めたピラミッドを作りたいと思っていたが、スポーツ協会も自分たちの改革をするのに手いっぱいで引き受けることは難しいということだった。したがってまずは小中学生のクラブから改革をスタートした。将来的にはスポーツ協会とタイアップして一貫したピラミッドを各スポーツの中で作っていきたいと考えている。

委　　員：地域クラブ活動になると必勝主義的な部分が大きくなるのではないかと懸念する。本来の部活動は、スポーツが下手であっても活動を通して運動が好きになる子を増やすという目的があり、そのような部分がかなり切り捨てられるのではないか。

スポ担当：色々なクラブへ取材に行くと、多くの指導者が子ども達を見て、色々な考え方を持った指導者がいる。その中にはスポーツを楽しむ子たちを育てたいとか、上手ではない子を救っていきたいとか、そのような考えを持った指導者も大勢おり安心して任せられると感じた。ただ、今のことは課題として常に持ち、指導者研修会もそのような視点で開催しなければならないと考えている。

委　　員：郡上は一つという強いリーダーシップを感じられた。しかし、それを支える保護者はそこまでの熱意はないかも知れない。移動負担などの思いはどのようにくみ取っていくのか。

委　　員：今までに50回以上の説明会を開催しており、保護者対象の説明会でも理解を求めてきた。平日は地域ごとに活動するため移動はなく、保護者への負担は軽いと考える。土日は移動があるが、例えば剣道は毎回練習場所を移動し、住んでいる地域によって不公平にならないよう指導者も考えてくれている。クラブとも相談しながら少しずつ課題を解決していきたい。

市　　長：平日は地域ごとで活動ということだが、厳密にどういうことか。

スポ担当：中学校単位ということである。

市　　長：地域によって子どもの数に差があり、ある種目では1人か2人しかおらず競技練習が成り立たないといったことはないか。

スポ担当：それも大きな課題である。例えば、明宝にはバドミントン、剣道、テニス、和良にはバスケット、剣道、テニスの指導者がおり、そのクラブがある。子どもの数が急激に減少している状況では選択肢がないのは確かである。平日は指導者がいる種目を選び、土日は自分がやりたい種目を選ぶという形になっていかざるを得ないのが現状である。

市　　長：考え方は理解できる。副市長や教育長は何か意見がないか。

副 市 長：問題点だけ指摘する。児童生徒数が減少すること、それによって活動が成り立たなくなる部活が出てくることは確かである。ただ、もう一つの背景として子どもたちのスポーツ離れや、親の負担によりスポーツを避けるという問題もはらんでおり、その点も考えていかなければならない。二つ目に、平日は地域で小中合同かつ指導者がいる種目での活動ということになると、地域間で格差が生じ不平等になるという懸念がある。さらに、休日は郡上市中から集まって同学年同士での活動ということであるが、中学生はそれで問題ないと思うが小学生はどうするのか。いずれは小中高校生が一体となって行う地域クラブ活動が実現できそうかを考える必要がある。最後に、移動による保護者負担は間違いなく増えるため考えておかなければならない。現在、少年スポーツ推進で一人当たり年間5000円出しているが、地域クラブ活動も部活動の一環であると考えると、財政的にどこまでカバーできるかわからないが、保護者の負担軽減もセットで考える必要がある。移行まで、計画的かつ段階的に進めていくと理解しているが、その中で今申し上げたような問題が出てくると思う。

教 育 長：子どものスポーツ離れを一番懸念している。ある市では、部活動から地域クラブへ移行させたところ、クラブの月謝が高く加入者数が半減したため部活動へ戻したということを聞いている。部活動の利点は、凌霜の心を育て共に協力して目標を成し遂げるということであるが、経済的負担が大きいと保護者の方でスポーツから遠ざかるといったことが起きる。中学生まではとにかくスポーツの好きな子を育て、高校生になってから県大会などで優勝することを目指す、つまり中学生のうちから試合に勝つことを目指すような活動をしていると子どものスポーツ離れが起きると考える。そのような意味では指導者の意識が大切であり研修会で育てる必要がある。もう一つは、移動の際の経済的負担を懸念している。例えば公共交通機関を使って会場へ移動した場合は、それを負担できないか、また公共交通機関の時間に合わせて練習開始時間や終了時間を決める、そのようなことを指導者にお願いできないかと考える。難しいことは承知であるが、少しでも保護者の移動負担を軽減することを教育委員会で考えていきたい。

委　　員：郡上には熱意と指導力のある人が大勢いると思っている。スポーツでも文化でも子どもたちを指導し携わってくれるのは心強く素晴らしいことである。 指導者の育成、技術の継承が非常に大切である。先日のオペレッタではその保護者だけではなく、興味がある人、応援したい人が大勢参観したように、クラブ活動に関しても試合などがあれば広く市民に周知し、気軽に観戦してもらったらいかがか。当事者だけではなく皆で盛り上げていけたらよい。

市　　長：原点に帰り、教育の中での学校部活動の意義は何であったのかを考えると、学校同士が協力し小学校単位で行う方法など、地域クラブ活動への移行ではない解決策はないのか、あるいはそのような方法に意味や意義はないのか。もう一つは、地域クラブ活動への移行は教職員の負担軽減や働き方改革と結びついており、その考え方の中から進められてきたのかを整理する必要がある。

学教課長：教職員の負担軽減ということもあっての地域移行であると考える。土日かまわず大会がありそのたびに教職員が引率していたが、地域移行が進み負担が軽減されたのは事実。また教職員はそのスポーツを専門に行ってきた人ばかりではないため、地域の指導者に専門的に教えて頂いた方が子どもたちのためになるともいえる。部活動の意義は集団で一つのことに取り組むということがあるが、地域の指導者であってもそこは任せられるということで移行が進められたと思う。

教 育 長：教員の働き方改革が発端である。アンケートによると教員の超過勤務の内訳は、中学校では部活動指導が最も大きいことがわかっている。そのことから部活動を地域クラブ活動に移行しようという話が出てきた。大学でも部活動指導は教員の仕事ではないと教えており、若い教員はそれを受けた価値観を持っていて今はそれが主流となっている。

スポ担当：スポーツの指導に関しては大変専門的になってきており、それは教員が教えられるレベルを超えている。また、全体的な教員の数も減っている。

教 育 長：大学でスポーツを全くやらずして教員になる人もいる。

市　　長：地域移行に伴って、指導する人のマンパワーは足りるのかという懸念はある。指導者への謝礼に関する市の財政的負担も心配ではある。全て市の負担というのではなく、国もある程度の財源を手当てするという方向にもっていく必要があるだろうと思う。先日、国会議員にはこの要望をしてきた。地域移行する方向で行わざるを得ない、これしかないことは理解した。

　　　　　仕組みづくりは一度にいかないこともあるが、時間をかけて丁寧にお願いしたい。

（２）郡上市内の学校における不登校の現状と対応について

　　　非公開

5．その他

　特になし

6．閉会　17:10

　原教育長職務代理者